

伊奈町版スーパー・シティプロジェクト ～日本一住んでみたいまちを目指して～ 地域まちづくり計画

令和8年3月

伊奈町

取組の概要

まちづくりにおける課題

当町の人口の現状は、しばらく横ばい状態が続いていたが、近年では減少が続く傾向がみられており、将来的な人口減少に備えた対策や高齢化の進展等に伴う交通弱者への支援が求められる。また、近年の急激な社会状況の変化等により顕著となる、従来型コミュニティの希薄化への対策が必要である。さらに、設備の老朽化や耐震性不足が指摘される現在の役場庁舎に代わる新庁舎の建設と併せ、近年の激甚化する災害に備えた体制の整備が必要である。

まちづくりの方向性

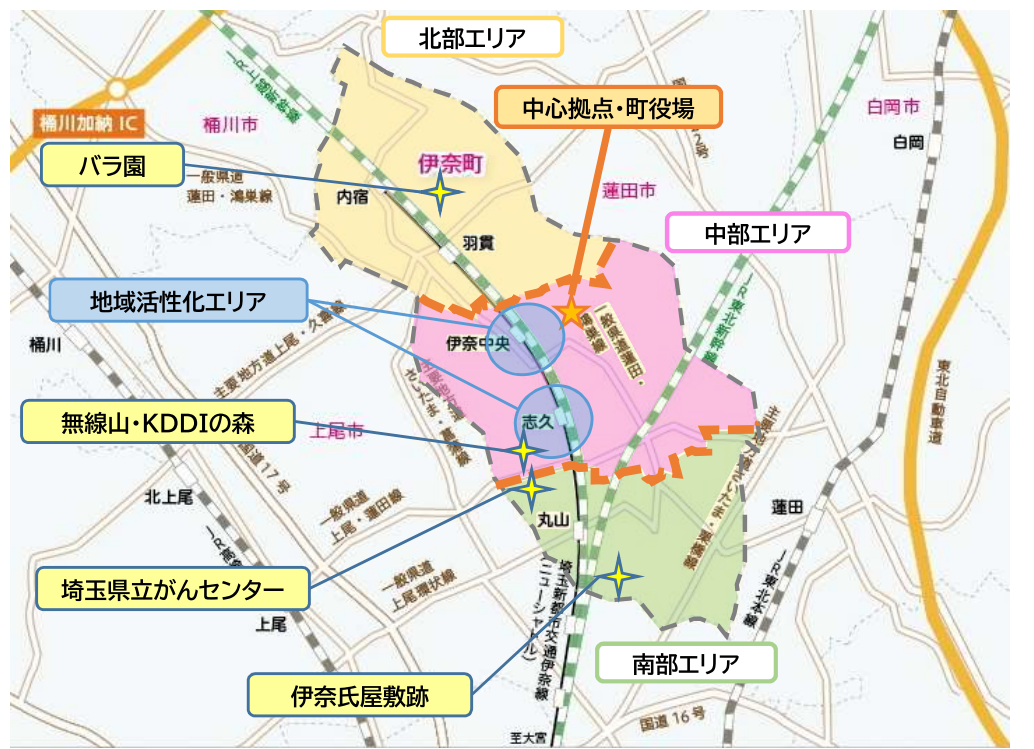
将来的な人口減少や高齢化の進展に備え、役場新庁舎への公共施設の集約・複合化など、コンパクトなまちを目指す。また、既存の観光拠点であるバラ園や伊奈氏屋敷跡に加えて、役場新庁舎及び志久駅や伊奈中央駅周辺等を核とした、新たに人が集まり、交流できる空間を創出し、コミュニティの活性化を図る。そして、先端技術の活用により、全ての住民と来町者の利便性を高めるとともに、持続可能で災害に強いまちづくりを推進する。

他の計画における位置付け

- ・伊奈町総合振興計画
- ・伊奈町デジタル田園都市国家構想総合戦略
- ・伊奈町都市計画マスタープラン

対象地域及び区域 町全域

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

当町の人口の現状は、しばらく横ばい状態にあったが、最近では減少が続く傾向がみられ、令和32年には、44,770人になると予想されている。世帯数では、平成2年以降、増加傾向で推移しており、令和5年には19,439世帯となっている。

年齢3区分別人口をみると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)は、それぞれ平成22年をピークに減少する一方で、老年人口(65歳以上)は増加しており、令和5年には10,890人となっている。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計よりやや早期に減少しており、年齢3区分別人口の推移と併せると、少子高齢化が今後さらに進むことが想定される。

地域交通の状況

当町の公共交通機関は、埼玉新都市交通伊奈線(以下、ニューシャトル)、町内循環バス(いなまる)、民間路線バス、タクシーによって構成されている。

南北方向に長い楕円形をしている地勢をニューシャトルが縦断しており、町内には5つの鉄道駅が存在している。沿線には、高等学校や大学、専門学校のほか、病院や企業の工場が立地しており、通勤・通学などの主要な交通手段の一つとなっている。また、当町のバス路線網は、隣接する自治体と当町を結ぶ民間路線バスに加え、町内循環バスは北循環と南循環の2系統を運行している(1日10便)。

開発の状況

当町の土地利用は、市街化区域が38.5%、市街化調整区域が61.5%となっている。計画的な土地利用を図るため、昭和47年より土地区画整理事業を実施しており、北部の羽貫駅周辺には大規模小売店舗が出店し、伊奈中央駅周辺には良好な住宅地として、多くの住宅が建ち並ぶ。一方、南部の丸山駅から志久駅にかけては、県立がんセンターのほか、高等学校や大学、専門学校といった教育施設が集まっている。

自然的土地利用では、北東に隣接する蓮田市との境を流れる綾瀬川沿いには水田が広がり、良質な米を生産している。また、町内全域に畑や保存樹林が点在しており、水田と併せて、貴重な緑地空間を形成している。

地域資源

当町は、都心から40km圏内に位置しながらも、豊かな自然と田園風景が広がる。恵まれた自然環境を生かし、梨やぶどうなどの果樹だけでなく、米や野菜の栽培も盛んである。

春や秋になると、400種5,000株のバラが咲き誇るバラ園(伊奈町制施行記念公園内)や、約200mの桜並木を楽しむことができる緑のトラスト保全地「無線山・KDDIの森」には、多くの人を訪れる。また、現在の関東から東海にかけての広大な地域の治水・かんがい工事、新田開発などを行った伊奈備前守忠次の陣屋跡である伊奈氏屋敷跡をはじめ、国登録有形文化財や県・町指定文化財など、町の歴史を伝える文化財が数多く残る。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

住民がいきいきと元気に暮らせる、そして笑顔がはじける、活力に満ちた「日本一住んでみたいまち」の実現に向け、以下の要素を取り入れたまちづくりを進める。

将来的な人口減少や高齢化の進展等が見込まれる中、希薄化する従来型コミュニティの活性化を図るため、既存の観光拠点であるバラ園や伊奈氏屋敷跡に加え、中部エリアに役場新庁舎や駅を核とする、多世代の人が集まり、交流できる空間を提供することで、コンパクトでにぎわいのある町を創出する。また、スマートモビリティやリモート窓口の導入など、先端技術の活用により中部エリアと北部・南部エリアを繋ぎ、利便性・快適性を高めることで、より公平な行政サービスの提供と、スマートなまちづくりの実現を目指す。そして、災害時でも途絶えない電源を役場新庁舎等に確保するとともに、気象観測データ・災害情報の共有の強化など、激甚化する災害に備えた体制を整備し、住民が安心して住み続けられる、持続可能で災害に強いまちづくりの実現を目指す。

推進体制

伊奈町版スーパー・シティプロジェクトの実現を目指し、庁内関係課による会議体や調整の場を設け、円滑な事業の進捗を図る。

併せて、事業の推進にあたっては、県関係課や民間企業、地元住民等と連携する。

事業全体の概要

【コンパクト】

コンパクトなにぎわい拠点の創出とコミュニティの活性化

- ・役場新庁舎に図書館等の公共施設を集約・複合化し、町のさまざまな情報や多世代の人が集まる拠点を創出する。
- ・学校・病院・企業の立地が進む志久駅周辺や、伊奈中央駅周辺等の利便性を向上させ、駅周辺を核とした、人が集まり、交流できる空間を創出する。
- ・空き家や空き店舗等の流通性を高めて、コワーキングスペースの整備など建物の有効活用を図り、町やコミュニティににぎわいを創出する。

【スマート】

先端技術の活用によるスマートなまちづくりの実現

- ・スマートモビリティ(太陽光発電を利用した電動シェアサイクルやAIオンデマンドバス等)の活用により移動手段を充実させ、にぎわい拠点と駅間など町内での回遊性や利便性を高める。
- ・リモート窓口を町の北部と南部に設置し、役場庁舎への来庁が困難な方への相談支援体制の充実を図る。

【レジリエント】

災害に強いまちづくりの強化

- ・役場新庁舎等に太陽光発電や蓄電池、電気自動車等を整備し、複数の手段による非常用電源と組み合わせた、災害時でも途絶えない電源を確保する。
- ・気象観測装置や水位計、震度計等に係るGISデータの公開により災害への備えを強化する。
- ・官民連携等の活用により災害情報の発信を充実させる。

計画図

- 役場新庁舎及び志久駅周辺等におけるにぎわい拠点の創出
- 先端技術の活用による持続可能で災害に強いまちづくりの実現



バラ園

中部エリア

- 【コンパクト】
- ・役場新庁舎への公共施設の集約
 - ・志久駅、伊奈中央駅周辺等を核としたにぎわい拠点の創出
- 【レジリエント】
- ・役場新庁舎等における非常用電源確保



北部エリア

中心拠点・町役場
(新庁舎整備予定地)

中部エリア

地域活性化エリア

伊奈氏屋敷跡

南部エリア

エリア全体

- 【コンパクト】
- ・空き家や空き店舗等の有効活用
- 【スマート】
- ・スマートモビリティ等の活用による回遊性及び利便性の向上
- 【レジリエント】
- ・気象観測装置等に係るGISデータの活用、災害情報の発信強化(防災情報サービス用屋内型専用端末)

北部・南部エリア

- 【スマート】
- ・リモート窓口の設置



KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	今後も伊奈町に住み続けたいと思う住民の割合	76.4% (令和4年度)	基準値(76.4%)以上 (令和10年度)	「伊奈町のまちづくりに関するアンケート調査」より
コンパクト	イベントなど人や情報が交流する機会が多いと思う住民の割合	15.5% (令和4年度)	基準値(15.5%)以上 (令和10年度)	「伊奈町のまちづくりに関するアンケート調査」より
スマート	鉄道やバスなどの公共交通機関を利用しやすいと思う住民の割合	34.3% (令和4年度)	基準値(34.3%)以上 (令和10年度)	「伊奈町のまちづくりに関するアンケート調査」より
レジリエント	災害時でも、災害応急対策業務を遂行できる役場新庁舎における非常用電源の確保時間	—	72時間 (令和9年度)	
レジリエント	掲載GISデータ数	4件 (令和6年度)	13件 (令和9年度)	